



# たまネット

今、その子に  
必要な支援は  
何なのか



熱い議論が交わされました。

第2回「多摩区☆子ども達を支援している事業所の集い」開催 日時●平成 28年7月8日  
場所●麻生養護学校

今年、多摩区地域自立支援協議会では障害を持つ児童に対する支援の充実を図るべく、新たに「児童委員会」を立ち上げてバックアップ。この「集い」も中心的な柱となる活動の一つです。

さて、第2回開催。今回は昨年度より多い19事業所・35名が参加されました。

まずは4つに分かれて、情報交換とグループ討議を行いました。ことに年々増えている放課後等デイサービスのあり方や連携の取り方などには、具体的かつ活発な意見が続出。「お母さんのニーズにはどこまで応えたらよいか」「長時間の預かりは本当に必要なのか」「サービスに繋がっている家庭は多くなってきているが、ご両親から発信があった際、まずはどこにつないでいったら良いのか」など事業所の皆さんならではの真摯な問題提起がなされ、率直な悩みも吐露さ

れたり、ご家族を支えるために日々努力研鑽されている様子がひしひしと伝わりました。

現在、支援を受けている多摩区内の0歳～18歳の子ども達は、それぞれが抱える障害の程度、種類、経緯などを踏まえ、個々の当事者にとっての支援が検討され、個別支援計画が組み立てられています。

そこには成長段階に合わせて変化する支援、親の理解度、要望など成人とは異なる課題があり、それらが最も難しいと言います。

大切なのは“その子に必要な支援は何なのか”を家庭と各事業所がしっかり話し、さらに学校や福祉との連携がなされること。

“家庭を地域で支え、子ども達を地域で育てていく。そんな多摩区になるよう頑張っていきたい”と最後に共有目標を確認して締めくくられました。

- 参加事業所 ●こどもサポート教室「きらり」 ●あおぞら多摩 ●ドリーム ●療育ねっとわーく川崎 ●フルライフスマートケア ●サポートセンターロンド ●ハッピーテラス登戸教室 ●ゆうの森 ●ココフル南生田 ●でんでん虫 ●フューマイル川崎 ●ドルチェ ●アベク ●いろはにこんぺいとう ●麻生養護学校 ●北部地域療育センター ●西部地域療育センター
- 協議会・区役所他 ●たま基幹相談支援センター ●百合丘障害者センター ●多摩区地域サポート担当 ●多摩区役所障害者支援係

今、どんな活動をしていますか？

現在、多摩区内には多数の福祉施設、事業所があります。それぞれ創意工夫したプログラムやユニークな取り組み等、その活動を当事者の声と一緒にお伝えします。

ち いきこうりゅう いっ ぽ ぜんしん  
地域交流へ一歩前進しました！

# “暑さにも寒さにもマケズ” みんなでゴミ拾い！

●平成 28 年 7 月 20 日(水)

●NPO 法人 たま・あさお精神保健福祉をすすめる会  
「紙ひこうき」

きれいになると  
きもちいいね！



## ランキング No.1は何だろう？

登戸にある地域活動支援センター「紙ひこうき」のみなさんが、ゴミ拾いをしていると聞いて7月の活動日におじゃましました。とても暑い日で、10分程でもう汗だく。熱中症にならないように、こまめな水分補給を心がけながらも、あっという間にビニール袋の約1/2ほどが埋まりました。

拾ったゴミのランキングは1位：タバコの吸い殻 2位：ガムの包み紙 3位：お菓子の袋 などです。参加者の中には「タバコの吸い殻ばかりで面白い(笑)」とたいへん率直な感想がありました。でも、歩道の敷石の細かい所もしっかりチェックと手慣れた様子です。

## スタートして、もう一年半。 ずーっと休まず実践中！

このゴミ拾いはスタートして、約1年半が経過しました。発案者は紙ひこうきに通うメンバーの男性。きっかけは平成26年に同法人内のグループホームが新しく移設しようとした時、地域の人たちから反対の声があがったことでした。

“どうして反対されるのだろう”と紙ひこうきの中でも話し合いがもたれました。その時、「自分たちのことが知られていないからではないか」「これまで積極的に地域の人たちと関わることもあまり無かった」との意見がでました。ここは、頑張っって「自分たちの存在を知ってもらうことが大切ではないか」そして「少しでも地域の役に立てれば」という声から始まったのでした。

## うれしい出来事いろいろ。 地域で顔の見える関係に。

ゴミ拾いを続けていると、近所の農園の方から梨を頂いたり、「ご苦労さま」と声を掛けられたりするなど、うれしい出来事があり「やっいて良かったな」と思うことも。またそんな時は「自分達の活動は誰かに見えてもらっている」と感じる事ができて励みになるそうです。活動は月一回、30分程度、参加者はその時々によって4～5名ですが、「やっぱり自分たちの拠点はきれいにしていたほうが良いね」と、まだ参加できていないメンバーも関心を持つようになり、今後の参加にも意欲を示しているらしい。この付近には保育園が多く、みんなの散歩コースでもあり「少しでも吸い殻等を無くしたい」という思いもあります。何より、この活動を継続している中で、「地域の一員であるという実感」を得られたという感想は一番の成果かもしれません。これからも大切にしていきたいとみなさんの声でした。



このスキマも見逃さないぞ！

### 参加者の声

- 今後は多摩川周辺にも活動の場を広げていけたらいいな。
- 散歩コースで声をかけられたり、挨拶したりも増えました。

NPO法人 たま・あさお精神保健福祉をすすめる会  
紙ひこうき

精神障害のある方の地域活動支援センターです。みんなで話し合って決める過程を大事に、休息・安心できる場所、交流・活動ができる場所を提供しています。

住所：川崎市多摩区登戸 2341-1

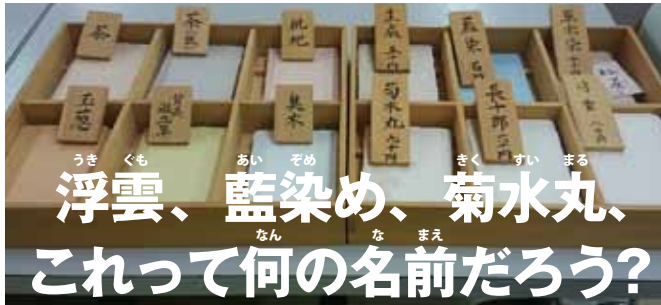
TEL/FAX：044-922-3686



# 「手すき和紙」の優しい 風合いを生むほのぼの空間。

●平成28年7月4日(月)

●社会福祉法人ともかわさき「なしの実」



まるで「和菓子みたい」と言ってしまうくなる素敵な名前。このほかにも「長十郎」「生成り」など個性ゆたか。実はすべて「手すき和紙」の製品名でした。

作っているのは多摩区生田にある「なしの実」のみなさんです。こんなふう天然素材の楮(こうぞ)を使って本格的な紙すき作業をしているところは他にないそうです。訪問したのはすこぶる暑い日でしたが、爽やかな笑顔で対応してくださった島田さんやスタッフさんからさらに詳しいお話を聞きました。

## 手間ひまかけて、知恵と工夫の10工程。今や職人技の腕前です。

この手すき和紙作りは、開所当時の職員さんが紙すきのノウハウを学び、障害者施設でできるよ作業工程を考え、試行錯誤しつつ、創意工夫を重ねてきた成果です。

まずは◎楮(こうぞ)の木の皮を柔らかくする→たたく→細かく砕く→漉(す)く。さらに、びわやたまねぎや桜の枝などから抽出した天然の染料で、きれいな色に染めあげたら、ハガキや名刺、コースターなどの商品に仕上げます。

その素敵な風合いは「まさにプロ級ですね！」の言葉に「施設の製品だからという妥協は一切ありません」と力強いお返事。もう開所以来30年間受け継がれた伝統ある事業と聞いて、その「クオリティーの高さ」に納得。そこには先人が築いてきた知恵と細やかな愛情が詰まっているのでした。



## 日中活動にも手作り感。心地良い空間にくつろぐ。

さて、ここは本来『楽しくすごそう』がモットーの施設。見回せば、楽しいパズルやボタン掛けの練習素材など職員さんの手作りグッズがあちらこちらに。利用者さんも、ゆったりマイペースで各々に作業中。私たち見学者まで居心地の良さにくつろいでしまう、そんな温もり感あふれる「なしの実」です。利用者さんは、73歳の男性の方を筆頭に約30人で、さまざまな作業に従事しています。とりわけ日帰り旅行やみんなまで正装しての食事会、クリスマスパーティーなどの年中行事は楽しみにされているそうです。

訪問者 / 古谷さん 吉本さん(たま基幹相談支援センター)



社会福祉法人ともかわさき なしの実  
ご本人の希望に合わせて、個別支援計画を作成。

各々に合った作業を行っています。  
住所：川崎市多摩区三田2-3256

TEL：044-930-5170

◎手すき和紙のお問合せ・販売は直接、なしの実へご連絡ください。

こ とし おお じぎょうしょ さん か  
今年も多く事業所さんが参加されました！

# 第16回 多摩ふれあいまつり

平成 28 年 6 月 19 日(日) ● 多摩区総合庁舎(多摩市民館)

## ～バリアフリー わたしとあなたとこの街と～

このスローガンのもと『障害のある方への理解を深めよう』とはじめられた多摩ふれあいまつり。今では、障害のある方、支援活動を行っている方、また地域で暮らす方たちとの交流の場として、すっかり親しまれています。当日は天候にも恵まれ、約4,000人の来場者がありました。参加された多くの事業所、作業所さんのブースも大盛況。展示販売や工作体験などを通してみなさんとふれあう貴重な機会を楽しまれました。当協議会も広報誌たまネットやお助けカード等の配布とともに活動紹介で参加しました。



## これ、いいね！ユニバーサルデザインの道具たち

### 洗濯物をラクラク干せる・取り外せるピンチハンガー



ピンチが開いた状態なので片手で干せます。



バーを握れば一列一度に外せます。



室内干し対応

洗濯物を干すのは意外と面倒なものです。ちょっとケガをしたり、病気によって指の力が弱い方や高齢者などは、ピンチで挟んだり、外したりが辛い時があります。そんな時に助かるのが、今回ご紹介のピンチハンガー「いちどにありがとう」という商品です。

普通のピンチは上部をつまんで開きますが、この商品はピンチの下を押さえて洗濯物を挟む仕組みになっています。実際に使ってみると、ピンチは軽い力で操作できるので、とても楽に干すことが出来ました。

また、洗濯物を外す際は、ピンチの上部にあるバーを握るだけで、一列一度にさっとピンチから外れる仕組みになっていて、とってもスピーディー。使い勝手の良さに感心しました。

さらに、片手でも干すことができるので、片麻痺の方や子供を抱っこしながらでも扱いやすい便利です。ドアなど垂直面にかけても水平になるように作られていて、室内での使用にも最適です。洗濯は毎日の事だから少しでも手間が省けると助かりますね！

お問い合わせ：Image Craft 株式会社 Tel 0574-42-6016 Fax 0574-66-7787 <http://www.imagecraftjapan.com>

## 多摩区地域自立支援協議会とは？

障害者総合支援法に基づいて、川崎市内では各区に配置されています。障害のある方々が、住み慣れた地域で安心して暮らしていけることを目的に、本人及び家族、相談支援事業所、福祉関係事業所、専門機関、区役所等のメンバーで構成されています。地域の課題を明確にして、それを改善・解決するために地域や社会資源とのネットワーク作り及び様々な企画を立案・提案し実行しています。

お問い合わせ

多摩区保健福祉センター高齢・障害課 多摩区地域自立支援協議会 電話：044-935-3302 Fax：044-935-3396  
ホームページ <http://www.city.kawasaki.jp/tama/page/0000054346.html> 多摩区地域自立支援協議会 検索